



CONTENTS:	2	Profile: Elizabeth Oliver
	4	ARK History
	6	Overview of Activities
	10	Tokyo ARK
	12	ARK in the Media
	15	Animal Cruelty Prosecutions



プロフィール
エリザベス・オリバー

PROFILE:
Elizabeth Oliver

エリザベス・オリバー プロフィール

1940年英国サマーセット生まれ。ノッティンガム大学で農学(酪農学)を専攻し、ロンドン大学で日本語を専攻。

学生時代から中国、モンゴル、日本などのアジアに興味を持ち、1965年、来日。英語教師として暮らすなか、保健所のガス室に送られたり、虐待に遭って命を落とす動物たちの多さを見かね、仕事の合間を縫い彼らの保護を開始。「動物は言葉を持たないでしょう。だから、代わりに私が彼らの声になりたかった」一。

1995年に起きた阪神淡路大震災で、行き場の無い600匹にも及ぶ被災動物たちを一度に保護。これがオリバー、とアニマルレフュージ関西にとっての大きな転機となる。英語教師の仕事のかたわら動物を保護していたが、これを機に仕事を辞め、ライフワークとして本格的に動物たちの保護や里親探しに専念。

毎年世界各地で開かれる「世界コンパニオンアニマル福祉会議」に必ず参加、アークで働く日本人スタッフも同行させ、動物福祉に関する最新の情報収集と会議に参加した各国の人々との意見交換を行う。そこには、根本的な問題を解決せず傷ついた動物達を受け入れるだけではもはやキリがない、そのために今一番必要なのは教育だという信念がある。

オリバーの次の目標は、サンクチュアリ建設。老犬老猫や持病を抱えた動物達が安全で暖かく、静かでストレスを感じることなく生活することが出来るサンクチュアリ(聖域)建設に着手した。





アークの歴史

The History of ARK

1990	アニマルレフュージ関西設立	Animal Refuge Kansai founded
1994年3月	イギリスの動物保護施設を見学	Staff visit animal welfare organizations in Britain on study trip
1995年1月	阪神淡路大震災で被災した動物 600匹を保護	ARK takes in 600 animals left homeless in Great Hanshin Earthquake
1997年12月	ジャパン聴導犬協会に初めてアーク の動物を聴導犬として寄贈	First ARK dog goes to Japan Hearing Dog Association for training
1998年4月	日本動物病院福祉協会CAPP委員会による ボランティア活動に参加	ARK works with Companion Animal Partnership Program (CAPP)
1999年2月	オリバーのエッセイ「Best Friends」 が発売される	Elizabeth Oliver's first book "Best Friends" published
1999年8月	NPO (特定非営利活動法人) 団体として 承認される。	ARK officially registered as a non-profit organization
1999年10月	ブルガリアにて「国際コンパニオン アニマル福祉会議」に出席	ARK attends International Companion Animal Conference (ICAWC) in Bulgaria
2000年3月	イギリスの動物保護団体を見学	Staff visit British shelters on study trip
2000年7月	アーク10周年記念パーティー開催	ARK 10th Anniversary party held in Kobe
2000年12月	フジ子ヘミングさんによるチャリティーコ ンサート開催	Fujiko Hemming holds charity concert for ARK and other charities
2001年5月	フィリピンにて「アジア動物会議」に出席	ARK attends Asia for Animals conference in Manila
2001年7月	「動物サミット2001名古屋」に出席	ARK attends Nagoya Animal Summit
2002年11月	プラハにて「国際コンパニオンアニマル 福祉会議」に出席	ARK attends International Companion Animal Conference (ICAWC) in Prague
2003年5月	「TAPS-動物の命を救う会シンポジウム」 にて講演	Elizabeth Oliver speaks at TAPS Symposium
2004年5月	ワルシャワにて「第6回国際コンパニオン アニマル福祉会議」に出席	ARK attends ICAWC in Warsaw
2005年3月	イギリスシェルターでのスタッフ研修	Staff training at British Shelter
2005年5月	大阪城公園より、犬18匹の大規模レスキュー	ARK rescues 18 dogs from Osaka Castle Park
2005年5月	東京アーク設立	Tokyo ARK founded
2005年6月	ARK15周年&東京アーク設立記念 パーティー開催	ARK celebrates 15 year anniversary and opening of Tokyo ARK
2005年10月	クロアチアにて「第7回国際コンパニオン アニマル福祉会議」に出席	ARK attends International Companion Animal Conference (ICAWC) in Croatia
2006年3月	イギリスの動物保護施設「ドッグス・ トラスト」にてスタッフ研修	Staff train at Dog's Trust in Britain
2006年6月	アークの犬11頭がイギリスの動物保護施設 「パタシー・ドッグス&キャッツ・ホーム」 に渡英	ARK takes 11 dogs to Britain's Battersea Dog and Cat home to be rehomed
2006年10月	ブルガリアにて「第8回国際コンパニオン アニマル福祉会議」に出席	ARK attends International Companion Animal Conference (ICAWC) in Bulgaria
2007年4月	フジ子ヘミングさんによるチャリティー コンサート開催	Fujiko Hemming holds charity concert for ARK and UNICEF
2007年9月	原宿にてチャリティーディナーパーティー & 原田京子さんによるARK写真展開催	ARK Charity Party and Photo Exhibition by Kyoko Harada at Fujimamas
2007年10月	ベルリンにて「第9回国際コンパニオン アニマル福祉会議」に出席	ARK attends International Companion Animal Conference (ICAWC) in Berlin
2007年10月	東京「IAHAIO(人と動物の関係に関する 国際会議)」に出席	ARK attends International Conference on Human- Animal Interactions in Tokyo
2008年3月	日本で初めて「RSPCA (王立動物虐待防止 協会)」の国際協会員に認定される	ARK first organization in Japan to be accepted as an International Associate Member of RSPCA

アニマルレフュージ関西 (ARK) とは An Overview of ARK





アニマルレフ्यूジ関西 (ARK) とは

ARK(アーク)は、非営利・非政治の私設団体で、動物を愛し、積極的に動物へ救いの手を差し伸べようとしている人たちのネットワークを作ることを目的として、1990年に英国人エリザベス・オリバー女史を中心に設立されました。

オリバー女史の母国である英国の動物法や、先進諸国の動物法に習い、日本国内の動物たちの環境や問題を少しでも改善していこうと日々活動している非営利の会員制団体です。また、世界の動物福祉の先進国は、動物たちをペットとしてではなく、家族であると同時に社会の一員として欠かせない存在“コンパニオン・アニマル”と位置づけていますが、その理念の啓蒙活動も行っています。

当ARKは、1999年8月にNPO(特定非営利活動法人)として承認されています。また2007年、日本で初めてイギリスのRSPCA国際準会員に認定されました。

RSPCAは世界中で広く認められている動物福祉の基準を確立した協会であり、世界的にも著名で権威のある団体の一員であることは、大変名誉なことです。

現在アークには犬250頭、猫200頭、その他銀狐や豚、ウサギなどの小動物が保護されています。

これらの動物はすべて、無責任な飼い主により、虐待や飼育放棄、または捨てられてしまった動物達なのです。アークでは、すべての動物に不妊・去勢手術を施し、心と体に受けた傷の治療をしながら、新しい家族を探しています。

アークの活動資金や動物達の医療費等の全額は、皆様からの寄付によって賄われております。アークでは、皆様のご理解・ご協力により活動を続けており、年間約300頭もの動物が素晴らしい出会いを果たし、新しい家族と共に幸せに暮らしております。1991年から、記録があるだけで犬2000頭以上、猫700匹以上を里親に出しています。

大阪のシェルターには、動物関連の学校を卒業した者、獣医師資格を持つ者、グルーミング等の専門知識を持ったスタッフが常時30名以上勤務しています。



アークの主な活動

- 1) 様々な過酷な状況にいる動物たちのレスキューと保護をし、心と体のリハビリを行った上で里親を探すこと。
- 2) 望まれずに生まれてくる犬や猫をなくすための不妊・去勢手術の遂行とその啓蒙活動。
- 3) 犬・猫などの飼い主さんに対する、動物の生態的に正しい世話の仕方や、扱い方、動物の行動の理解の仕方など、HPやパンフレット、電話対応などを通しての啓蒙活動。
- 4) “コンパニオン・アニマル”理念の啓蒙活動。
- 5) ARKニュースレター（約16p 季刊）15000部を発行。
- 6) 現行の動物保護法を真に効力のあるものにするための行政への働きかけ。

独自性、先駆性、希少性

当団体は、日本にある動物保護団体でありながら、代表が英国人であることが最も大きな特色だと思います。英国は、世界で最も動物福祉に対する意識の高い国とされていますが、アークはイギリスのシェルターをお手本にしています。そのため、里親制度のほかに以下の3つの制度を設けています。

1、スポンサー制度（スポンサーペットのご案内をご参照ください）

高齢、体に障害がある、虐待を受けていたため人間不信である・・・といった、里親さんが見つかるチャンスが

少ない動物たちのために、スポンサーになって頂くことです。現在600名以上のスポンサーがいます！

2、メンバー制度（アークメンバーズクラブをご参照ください）

アークメンバーズクラブにご入会いただき、ご寄付いただく制度です。現在2000名のアークメンバーがいます！

一般寄付

上記以外にも、アークのグッズをご購入頂いたり、フード等のご寄付やボランティア活動など様々な形で皆様からのサポートを頂く、一般寄付及び物品寄付があります。また、サンクチュアリ基金、大規模レスキューといった、目的が定まっている寄付の形態もあります。





東京アークの活動内容
Tokyo ARK

東京アークの活動内容



2005年春、活動を広げるため設立。主にアークのPR活動、関東地域の動物のレスキューや里親出し、アーク関西の動物の、関東近郊での里親出しなどを行っています。現在東京アークからは、ひと月に8匹程の動物が新しい家族を見つけて巣立っています。現在のところ東京アークにはシェルターがありません。が、私どもは首都圏に、保護された動物たちを一時預かりとして世話を下さる家庭の素晴らしいネットワークを持っています。また月に2〜3回、東京都内と横浜で里親会を開催しております。

東京アーク活動実績。

- ゴールドマン・サックスより、動物の救助や里親出し、PR活動に使用するためのヴァン車購入資金の寄付金を受ける。



- ゴールドマン・サックスの“2008 Community Team Works Project”の一員として活動する団体に選ばれる。
- 在日アメリカ商工会議所が行ってる“Corporate Social Responsibility Program”の第三番目の慈善団体に選出される。
- 「Japan Times」の週一回掲載のコラム“photo box”を通じ、30匹以上のアークの動物たちを里親に出す。
- 東京都内で100匹以上の動物たちを里親に出す。
- 日本の新聞・雑誌や英語の新聞・雑誌でのインタビュー、各種イベントでのスピーチ、学校訪問などの機会に、動物との正しい接し方や世話の仕方、愛し方などの啓蒙活動。

数多くのメディアへの出演実績
ARK in the media



数多くのメディアへの 出演実績

「JAPAN TIMES」、「National Geographic」、「ACCJ」
、「読売新聞」、「朝日新聞」、「毎日新聞」、「AERA」などの
新聞、雑誌への掲載、また近年では、TBSの「天才!志
村動物園」、TBSの「動物奇想天外」等でアークのシリー
ズドキュメンタリーが放映されたほか、オリバーの半
生がTBS「夢の扉」でも取り上げられました。



JapanTimes Photo Box

ARK animals feature in the Japan Times every Saturday. The photo box started in June 2007 and is fast gaining in popularity. We feature a photo of animals looking for a home in the paper and then we also feature the animals with their new family.

ARKの動物達が、毎週土曜日のジャパントイムズ紙でフィーチャーされています。

動物達の写真掲載は2007年6月に始まり、とても速いスピードで支持率が上がっています。

我々が写真でご紹介するのは、新しい家族を募集中のステキな動物たち、そして新しい家族を見つけた動物達の、家族一緒のハッピーショットです。



GOLDEN YEARS



LAN is a dog that really, really deserves a home. She would make a perfect pet, but because she is older, people don't adopt her. They walk straight past dogs like her — a dog that would never bite a child, a dog that gets on well with other dogs, a dog that doesn't pull on the lead. The list of Lan's merits is long. If only people could see the simple joy, the calm, mature joy an older dog brings to a home. No stress, no mess, no training. Lan would make any new owner proud. Lan was owned by a homeless person, who was forced to give her up. She is a traditional Shiba mix, 10 years old and weighs a slight 13 kg. She would fit in well with any family, even a busy one. Lan has a heart of gold and does all she can possibly do to please. Please don't pass her by. KENTARO WASHI PHOTO

Anyone interested in adopting Lan, please e-mail ARK at Tokyoark@arkbark.net or call 080-6146-3889 (English). 080-6517-8913 (Japanese). Tokyo ARK is a nonprofit organization founded by Brit Elizabeth Oliver. It is dedicated to rescuing and rehoming abandoned animals and others. All animals are vaccinated, neutered and microchipped. Prospective new owners undergo a screening process.

SITTING PRETTY



RYAN DEBUTED in the Japan Times on June 2 and was featured in the July 26 issue. He had lived at the ARK shelter after having been found abandoned in a park and having survived multiple fractures to his pelvis. Ryan has now found a loving home with Moriko (above) and Katsunari Watanabe from Osaka. The statuesque say Ryan is wonderfully happy in his new environment and the smiling content look on Ryan's face above certainly would indicate that. He is out of his lonely car and now sleeps next to Moriko on the futon. Quiet, calm and angel, he is king of the house, yet happy to share his kingdom with Shiroburi, his female feline friend. KATSUNARI WATANABE PHOTO

For more information on animals at ARK please e-mail Tokyoark@arkbark.net or call 080-6146-3889 (English), 080-6517-8913 (Japanese).

WITH A LITTLE HELP



TETTA is a kitten with special needs and he is in dire need of a home. Born a stray, the now 3-month-old Tetta suffered severely from the cold and lack of food. He was rescued but not before his nervous system had been damaged. After he was taken in, antibiotics helped him fight the infection that would have killed him, but his eyes were affected and now move rapidly from side to side. Still, he can see and he moves around normally. Tetta loves to be cuddled, craves affection and has captured the hearts of the shelter staff, who are desperate to find him a home. They are all hoping against hope that someone will reach down deep, find that special place in his or her heart and reach out to help this dear and very special kitten. KADRI KAYANO PHOTO

Anyone interested in adopting Tetta, please e-mail ARK at Tokyoark@arkbark.net or call 080-6146-3889 (English), 080-6517-8913 (Japanese). Tokyo ARK is a nonprofit organization founded by Brit Elizabeth Oliver. It is dedicated to rescuing and rehoming abandoned animals and others. All animals are vaccinated, neutered and microchipped. Prospective new owners undergo a screening process.

NEW BEGINNINGS



JULIE OKAMOTO, in a car in Konandai, Kanagawa Prefecture, holds the kitten Tetta (featured Jan. 26) upon his arrival from the ARK Kansai shelter. Originally from Australia, high-school teacher Okamoto heard of Tetta's plight — in desperate need of a home but with little hope of finding one because neural damage had affected his eyes. It didn't stop Okamoto, who, in 26 years in Japan, has worked at her school as an independent activist to help rehome stray cats. Something about Tetta struck a chord and she reached out to help. In a peculiar coincidence, the morning Okamoto was to meet Tetta for the first time, she realized the date also struck a chord. It was 26 years ago to the day that she had first come to Japan. New faces, new beginnings. For Tetta it meant the chance of and at a lifetime. To the Okamoto family, thank you! BRIAN SIMPSON PHOTO

アークが起訴した
動物虐待事件

Cases of Animal Cruelty
Prosecuted by ARK





アークが起訴した動物虐待事件

ケース1:近江八幡ブリーダー

日付:2004年2月

詳細:ARK代表は、2004年2月19日、近江八幡にあるブリーダーの土地に呼ばれました。我々はそこで、犬種を判別できない12頭の犬の死骸と、そして骨と皮ばかりにひどくやせ衰えた1頭のゴールデン・レトリバーと2頭のバーニーズマウンテンドッグを見つけました。自治体は近隣住民から騒音と異臭の苦情を受け、2003年にその土地を視察に行き、問題点を見つけたにも関わらず、アークが2月に訪問するまで更なるチェックを行いませんでした。警察及び自治体は、動物虐待に関する法律があまりに漠然としていることを理由にブリーダーを訴追することが出来ないとしたため、ARKはブリーダーに対し、訴訟を起こす決定をしました。

結果:ブリーダー夫婦はそれぞれ20万円の罰金を科されたが、彼らの手元に残った4頭の犬を手放す必要は無いと判断されました。

ケース2:コウエイドッグスクール佐賀県ブリーダー

日付:2006年12月

詳細:2006年12月、アークは佐賀県の悪質ブリーダーを告発することを決めました。男はそこで、ひどく劣悪な状況下で主に小多くの秋田犬と柴犬を飼っていました。その結果、多数の犬が命を落としました。激しいメディアによる攻撃が功を奏し、佐賀当局は男を動物虐待容疑で告発することとなりました。

結果:アークは、先方の責任所在者の曖昧さにより起訴を断念せざるを得ませんでした。しかしその代わりに、大変に大きな成果及び勝利を生み出しました。佐賀県は、一般の多頭飼育者及びペット飼育者だけでなく、繁殖業者についても検査と管理を徹底しより厳しく規制する新しい法律を成立させることを決定しました。